

環境活動レポート



2017年度版

【2017年4月1日～2018年3月31日】

一般財団法人

滋賀保健研究センター

2018年5月10日 発行

目次

1.当財団概要	P2
2. 対象範囲	P3
3.環境方針	P4
4. 環境目標	P5
5. 環境活動計画	P6
6.環境目標実績	P7
7-1. 環境活動計画の取組み結果及び評価	P7
7-2.次年度の取組み内容	P12
8. 環境関連法規	P13
9. 社会貢献活動	P13
10.代表者による全体評価と見直しの結果	P14

1, 当財団の概要

(1) 名称及び所在地

一般財団法人 滋賀保健研究センター

〒520-2304

滋賀県野洲市永原字上町664番地(本館)

滋賀県野洲市永原字上町681番2(別館)

〒518-007

三重県伊賀市服部町341-1 伊賀営業所

〒567-0086

大阪府茨木市彩都やまぶき5丁目3番1号

北大阪営業所

(2) 代表者

理事長 大道 重夫

(3) 環境保全関係の責任者及び担当者連絡先

責任者 伊吹 仁

担当者 大林 繁雄

連絡先 電話番号 077-587-3588(代表)

FAX番号 077-587-5441

E-mail info@shrc.or.jp

(4) 事業概要

事業目的 産業労働者、地域住民、学生、学童生徒への健康管理事業の推進を実施するため、各種健康診断、健康づくり(健康管理に関わる指導助成等)、作業環境測定等を行なうことにより、地域医療の発展及び社会福祉の向上に寄与することを目的とする。

事業内容 1) 産業労働者、学生、学童、地域住民への各種健康診断
2) 診療所内での各種健康診断、精密検査及び健康相談等
3) 健康づくり(健康管理に関わる指導助成等)のための指導と援助
4) 事業場への作業環境測定及び生活環境、環境保全に対する指導と援助
5) 安全衛生及び健康管理に関する調査研究及び講習会、研修会の開催

(5) 事業規模

従業員数 230名(正規従業員数120名、パート110名)

概略

		単位	2016年度	2017年度
産業保健	定期健康診断	人	133,923	135,323
	生活習慣病検診	人	37,055	38,913
	人間ドック	人	2,964	3,162
地域保健	特定健康診査	人	6,404	6,278
	その他検診	人	3,013	1,478
	胃がん検診	人	5,514	5,145
	乳がん検診	人	4,272	4,409
学校保健	心電図検査	人	39,905	39,997
	尿検査	人	123,575	126,400
特定保健指導	初回面談	人	463	788
作業環境測定	測定単位総数	ヶ所	1,412	1,497

敷地面積 本館 5,775㎡ 別館 1,317.03㎡ 伊賀営業所 64.59㎡
 北大阪営業所 79.62㎡

建物

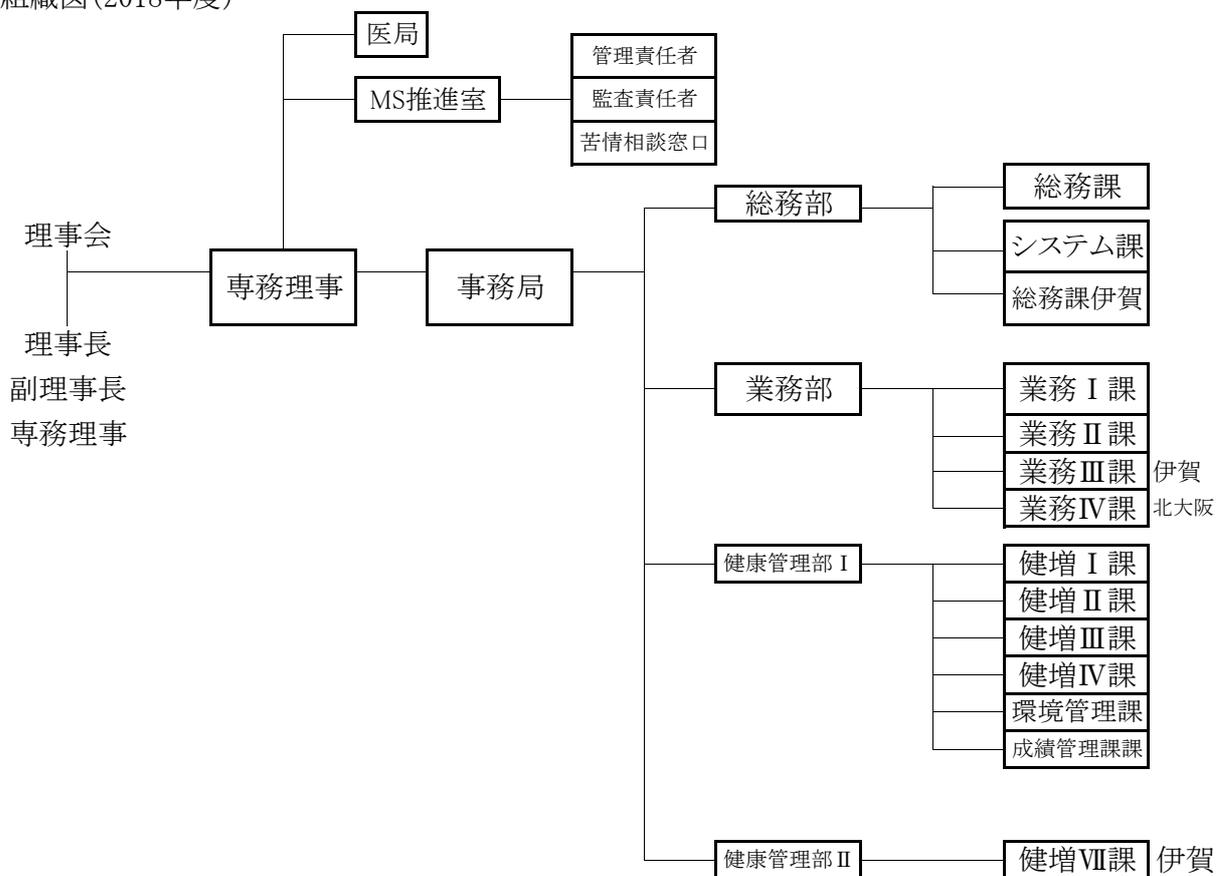
述べ床面積	管理棟	本館	別館	伊賀営業所	北大阪営業所	合計
	1,158.75	1,310.60	2,406.79	64.59	79.62	5,020.35

(単位:㎡)

敷地外駐車場

野洲市富波堤下1160-6番地 従業員車輛8台
 野洲市富波乙小沢 従業員車輛4台
 野洲市富波甲1429-1・1430-1 健診車輛7台・従業員車輛20台
 野洲市富波甲1626-1 従業員車輛20台

組織図(2018年度)



2.対象範囲

全部署、全活動を対象範囲とする。

3, 環境方針

一般財団法人滋賀保健研究センターは、1980年の財団法人設立当初から「産業労働者、学童、地域住民への健康診断、作業環境測定等を行うとともに、健康管理業務への指導助成を行い、健康管理に寄与すること」を目的として保健サービス事業を推進してまいりました。

今後ともお客様及び地域社会に対して安心して親切な保健サービスを提供し、満足の得られる事業を推進するため、当財団の全組織、全活動を対象として、ここに環境方針を定めます。

1. 環境に関する法令、条例及びその他の規範を遵守いたします。
2. 地球温暖化防止のため省エネルギー・省資源を推進し二酸化炭素排出量削減に努めます。
3. 環境に配慮した資材の調達を推進することに努力します。
4. 水使用量の節約に努めます。
5. 廃棄物の削減に努めるとともに、その廃棄物の適正処理を行います。
6. 化学物質は必要最小量の使用に努め、適正な管理を行います。
7. 環境に配慮したサービスの提供に努めます。
8. 環境目標を定めて継続的に維持改善を図ります。
9. 環境に関するお問合せ、苦情等は、下記までお願いいたします。
10. 本環境方針は従業員へ周知徹底をいたします。

お問い合わせは、苦情相談窓口担当者宛にお願いします。

E-mail: info@shrc.or.jp TEL077-587-3588 FAX077-587-5441

制 定:2008年6月1日

改 訂:2012年4月1日

一般財団法人 滋賀保健研究センター
理事長 大道 重夫

4.環境目標

各項目の当年目標及び、中長期目標

		基準年	2017年度目標	2018年度目標	2019年度目標	
総二酸化炭素排出量		2016年度 478,406.00	492,446.90	468885.72	464196.86	
二酸化炭素排出量削減取組	本館電気使用量 (kWh)	2016年度 180699.0	180669.1	178896.5	178002.0	電力排出係数 0.370kg-CO2/kWh
	別館電気使用量 (kWh)	2016年度 129229.0	129217.7	127939.9	127300.2	
	伊賀営業所電気使用量 (kWh)	2016年度 6851.0	7308.0	6782.7	6748.7	電力排出係数 0.509kg-CO2/kWh
	ガス使用量 kg	2016年度 77.3	77.3	77.3	77.3	
	灯油使用量 L		3389.2	3372.3	3355.4	
	ガソリン車平均燃費 km/L	2016年度 15.776	16.190	16.271	16.352	ガソリン、軽油については、平均燃費向上を目標としています。
	バス軽油平均燃費 km/L	2016年度 3.181	3.085	3.101	3.116	
	1BOX軽油平均燃費 km/L	2016年度 10.836	11.029	11.084	11.140	
廃棄物総排出量削減	t	2016年度 42.43	42.22	42.01	41.80	
水使用量削減	水資源使用量 (本館) m ³	2015年度 1691.0	1625.0	1625.0	1625.0	*1
	水資源使用量 (別館) m ³	2016年度 387.0	385.1	383.2	381.3	*1
環境に配慮したサービスの提供	胸部X線車外線 使用率向上	2016年度 77.8%	78.0%	78.4%	78.8%	
化学物質の適正管理	化学物質廃液 排出量 (業者回収)	2016年度 現像液 64kg	目標設定なし	目標設定なし	目標設定なし	*2
		2016年度 分析液 67.2kg	目標設定なし	目標設定なし	目標設定なし	
グリーン購入の推進	グリーン購入品目数 増加	2016年度 25	27	29	31	

*1.検水量周期に同期した2017年3月～2018年2月とする。

*2.化学物質の使用量は、必要最小量とし、購入、使用、保管、廃棄を適正に行なう

5.環境活動計画

		取組内容
二酸化炭素排出量削減	電力使用量削減	①適切な室温設定にする。冷房28℃、暖房20度を遵守する。 ②照明、パソコン等機器類の電源管理 不要な照明の消灯、パソコンの電源は、使用時以外は切る ③空調フィルターの定期清掃を励行する。 ④LED照明の導入を検討する
	ガス使用量削減	ポスターによる啓発活動
	灯油使用量削減	①焼却炉の適正運用 ②焼却物と不燃物の分別の徹底 プラスチック類、ビニール類と不燃物の徹底
	ガソリン、軽油車輛の燃費向上	①アイドリングストップの励行 施設内及び顧客先でのアイドリングストップの遵守 ②エコドライブの励行 エコドライブ講習の実施 ③更新車輛についてハイブリッド車・低燃費車の検討を行なう。
廃棄物総排出量削減	一般産業廃棄物削減	①紙類(機密文書、個人情報等)の適正処理 ②「廃棄物分別表」に基づく分別徹底 空き缶、飲食物容器、燃えないゴミ、燃えるゴミ、コンテナ投棄の分別徹底 ③リサイクル化の推進
	感染性廃棄物削減	①分別処理の徹底 ②適正処理の周知徹底
総排水量削減	水使用量削減	①ポスターの掲示による節水を呼びかけにより実施する ②洗車時の節水を励行 散水ノズルを通水止水が可能な物を設置する
環境に配慮したサービスの提供	胸部X線車の外部電源使用率向上	お客様の協力を得て、外部電源使用を進め、発電機の使用を削減する ①各担当営業が事前に電源確保を打診する。
化学物質の適正管理	適正管理	法令順守による適正管理
グリーン購入の推進	グリーン購入品目数増加	事務用品を中心に計画的に推進する。

上記の目標を達成する為に、各部署が重点的に取り組む事項を、部門環境活動計画の定め活動に取り組むことといたしました。

6.環境目標実績(2017年度実績)

		2017年度目標	2017年度実績	評価(対目標)	
総二酸化炭素排出量(kg-CO ₂)		492446.9	532508.0	△	92.5%
廃棄物総排出量削減(t)		42.22	43.05	△	98.1%
水使用量削減(m ³)		2010.0	2002.0	○	100.4%
環境に配慮したサービスの提供	胸部X線車	78.0%	73.5%	△	94.2%
	外線使用率				
	向上				
化学物質の適正管理	現像廃液	目標設定なし	0	適正管理を行なっている	
	分析廃液	目標設定なし	67.4		
グリーン購入の推進	グリーン購入品目数増加	27	27	○	100.0%

目標達成＝○、10%以上の達成＝◎
目標未達＝△、10%以下の未達＝×

*100%を基準に超えるほど達成率が高く、
下回るほど目標未達となっています。

7-1環境活動計画の取組結果とその評価

(1)温室効果ガス排出量削減

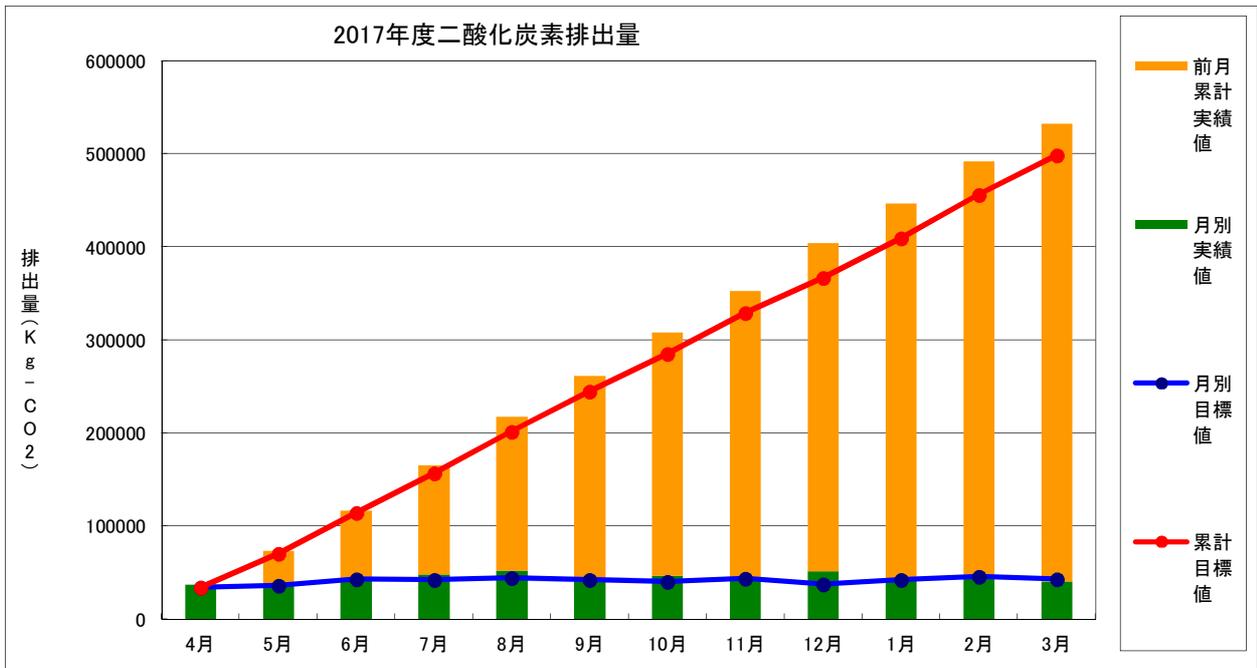
当財団では、2008年度よりエコアクションの取組を行なってきました。取組を開始した当初と比べ、仕事量が増加してきたことで、温室効果ガス排出量は、年々増加してきています。大きな削減効果が出る取り組みは、既に行なってきたので削減することが難しくなっています。

そこで、今年度については、総計で対前年1%削減を達成するとして取り組むこととしました。

結果は、二酸化炭素排出量は、今年度目標492,446.9kg-CO₂に対し、実績532,508kg-CO₂となり、残念ながら目標から40,061.1kg-CO₂増加しました。増加した大きな原因は、仕事量の増加や滋賀県外の健診出動の増加により、移動距離が伸びたことで、特に軽油の使用量が増加したことで、二酸化炭素排出量が増えました。

廃棄物排出量は、止血綿や尿コップを焼却処分をすることになり、可燃ごみが増加したことで、昨年30,004kg-CO₂が今年度36,101kg-CO₂と増加しました。

2017年5月に北大阪営業所を開設いたしました。エコアクションの取り組みは他の施設と同様に節電、節水にも取り組んでいますが、電力、水道について集計が取れないため、燃費向上の取組だけとなり、業務車輛のガソリン使用量のみ集計に入れています。



1) 本館・別館・伊賀営業所電気使用量削減

目標 本館、別館 伊賀営業所 前年比0.5%削減、

活動計画にもとづいて各部署、各自取り組みを実践いたしました。本館は達成、別館は未達となりました。別館については開催日が当初の計画から増加したことで、使用量が増え目標が未達となってしまいました。

伊賀営業所については、元々電力使用量が少ない為、変動が大きくなりがちです。そのような状況ですが、前年比0.5%減の目標で取り組みを行ないました。

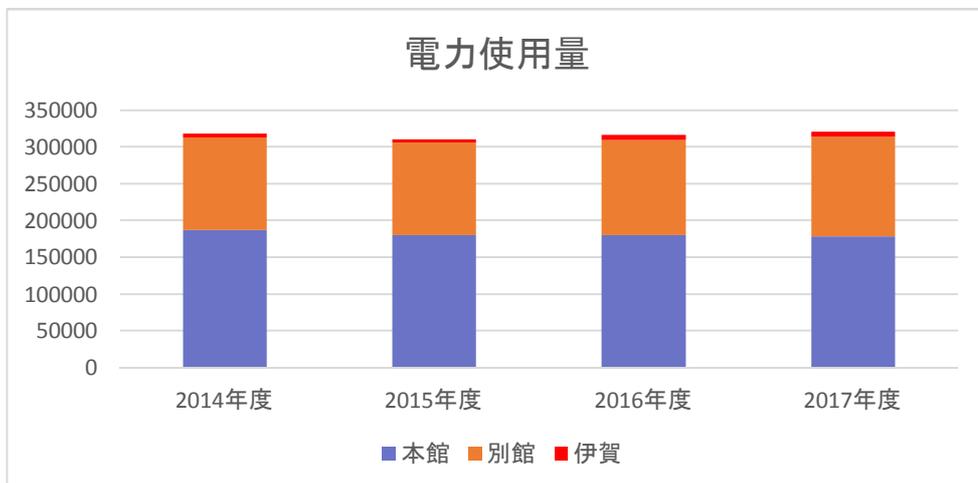
伊賀営業所所属スタッフの増員したことで、事務所の使用時間が増え、目標を4ヶ月連続で超過していた事から、目標を8月に見直しを行ないました。

結果、見直し後の目標は達成することができました。

別館は、当初の計画時より開催日程が増えたことで、累計での目標は未達となってしまいました。

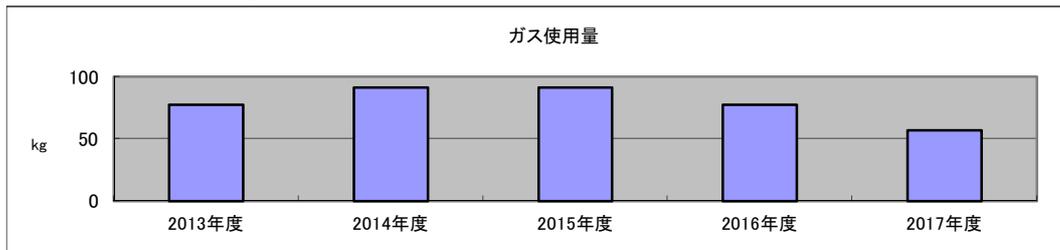
3箇所の合計で前年よりも4410KWh増加する結果となりました。

本館対目標 100.4% 達成
 別館対目標 95.4% 未達
 伊賀営業所 104.5% 達成



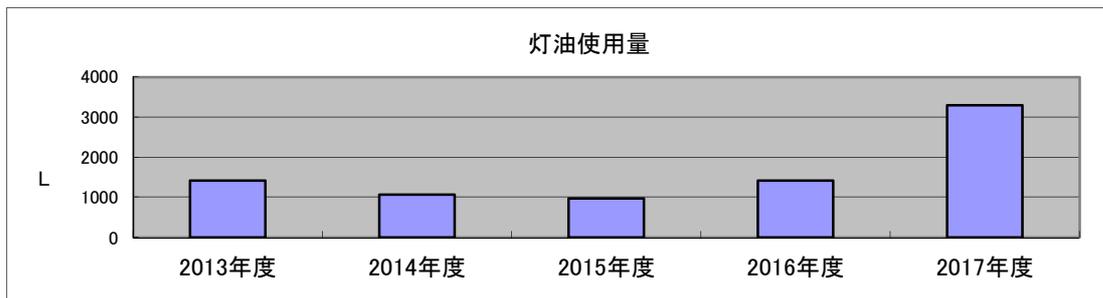
2) ガス使用量の削減 対目標136.3% 達成

ガス使用量は、給湯器のみで使用しています。使用後のバリウム容器を洗浄し、リサイクル業者に提供をして、リサイクルプランターとなる取り組みを行っています。容器の汚れを落とすには、お湯で洗浄することで汚れが落ちやすいことから、お湯を使って洗浄しています。そこで、必要な時にだけ給湯器を使用するように、掲示を行い削減の意識向上を図っています。今年度、大幅に削減となった要因は、仕事量の増加により、容器洗浄を行う機会が減ったことで、お湯の使用が減ったためです。



3) 灯油使用量の削減 対目標 102.7% 達成

灯油は主に焼却炉の助燃装置の運転に使用し、タイマーにて制御しております。昨年に比べ大幅に使用量が増加した要因は、昨年までは焼却していませんでした採尿に使用したコップ、止血綿を焼却することとなり、焼却炉の使用が増えたことで大幅に増加しています。



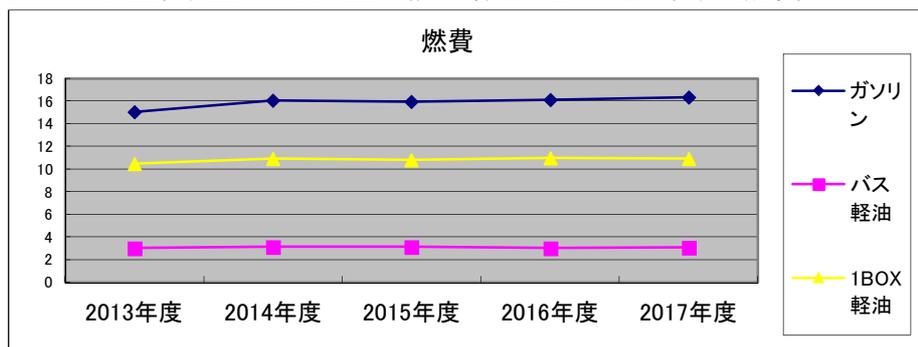
4) ガソリン・軽油車両燃費の向上 対目標 ガソリン車100.9%達成、バス軽油98.0% 未達 1BOX軽油98.5% 未達

エコアクションの取り組みを開始した当初よりも仕事量が増え、活動範囲も広くなり、ガソリン・軽油の使用量が増えてきましたので、2012年度から仕事量に影響されない、燃費向上を目標にして、各部署、各自エコドライブ等の取り組みを実践しています。

今年度は、エコドライブ講習の実施やハイブリッド車、低燃費車での更新をすすめたことでガソリン車は燃費向上に繋がりました。

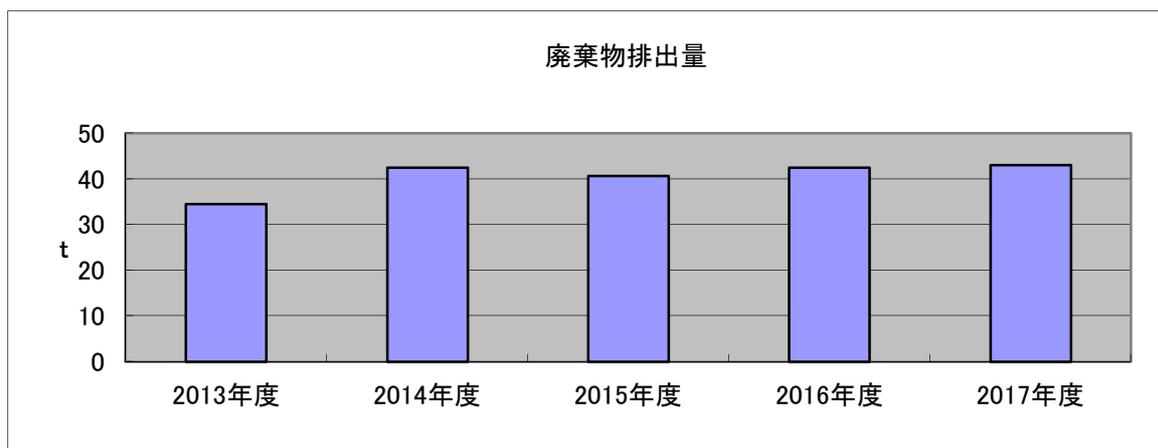
バスは、目標は未達でしたが昨年よりも若干ですが向上しています。原因として、バスの更新車両が比較的燃費が良かった小型、中型車から大型車両が増えてきたことで、平均燃費は悪くなっています。

1BOX車は更新が無く前年とは変わらない燃費となっています。次回更新車両の選定はバスを含め低燃費車での更新を行ないます。



(2) 廃棄物排出量の削減

対目標 98.1% 未達



今年度は止血綿や尿コップを焼却する事になった事で、廃棄物排出量が増加したことで目標を達成出来ませんでした。

また、今まで、バリウム容器を洗浄し、リサイクル業者に渡していたのですが、業務量の増加により容器洗浄できる機会が減ったことで、廃棄物として排出する量が増えました。リサイクル量は昨年830kgでしたが、今年度358kgと減少しています。

今後は、分別を徹底し焼却ゴミを削減するとともに、極力バリウム容器の洗浄を行い、少しでも多くをリサイクルに出せるようにいたします。

感染性廃棄物は、昨年よりもスピロ検査の件数が増えたことで感染物のマウスピース・フィルターにより感染性廃棄物が増えました。

廃棄物の処理は法令遵守による適正処理が最も重要な事項であり、感染性廃棄物はリサイクル化等の有効な減量対策が出来ません。今後も分別の徹底を重点に、適正処理・廃棄量の削減に努めます。

(3) 水資源使用量削減

水道水使用量削減

対目標 本館 100.5% 達成、別館 100% 達成

今年度は本館外来施設のトイレ改修を行いました。今まで対応出来ていなかった身障者対応トイレとしました。

設置時には節水型トイレを設置し水使用量の削減に取り組みました。

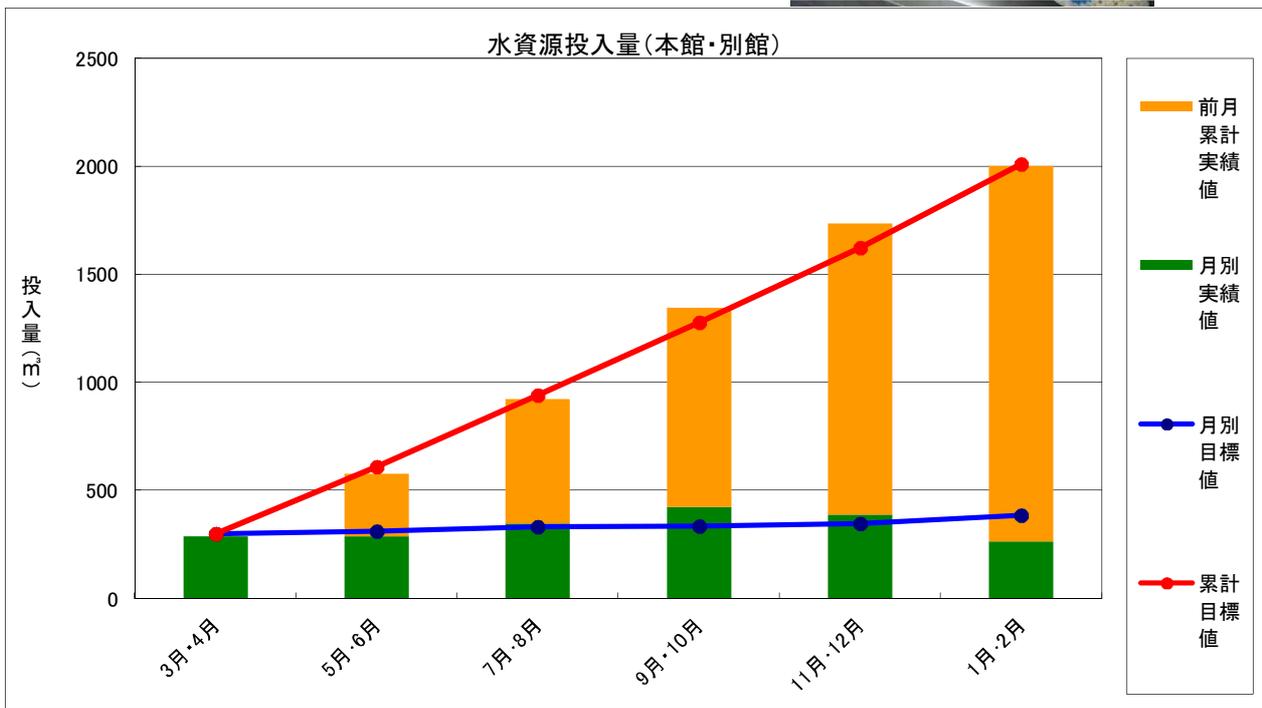
また、バリウム容器を洗浄し、リサイクルしていますが、洗浄時には、水を流しっぱなしにならないように、蛇口付近に掲示を行い、節水の意識向上に努めました。

しかし、今年度はあまり容器洗浄を出来る時間が無く、洗浄できる日が少なくなり、水使用も減少しました、目標は達成出来ました。

別館では、水使用の多くは、内視鏡洗浄時に使っています。今年度目標を立てた時期から、内視鏡検査のニーズの高まりから開催日を増やした事から、10月までの使用量は未達となっていました。しかし、3月での水使用は少なく出来るとの予測から、年間の目標は変更せず取組ました。結果として目標どおりの結果となりました。

今後は、本館管理棟でのトイレ改修時にも節水型トイレ、また音姫の導入を行い、生活水の使用量が少しでも削減できるように取り組んでいきます。





(4) 環境に配慮したサービスの提供

胸部X線車の外線使用率向上

対目標 94.2%

X線検診車の発電機を使用すると二酸化炭素の発生だけでなく、排ガス(煤塵、臭気、廃熱)、騒音の発生を伴いますので、顧客の給電位置、給電容量などに制約が無い場合には、顧客の理解と協力を得て、外部電源を使用させていただき、発電機の使用を控える事として、目標を対象となる会場の78.0%以上として取組ました。

結果、73.5%の会場で協力が得られ、外部電源使用させていただけることとなりました。しかし、1月に外部電源用コンセントが故障したが、特注部品の為、部品入荷が出来ず現在も、発電機での対応となっているため、目標を下回る結果となりました。

(5) 化学物質の適正管理

当財団で取り扱う化学物質は、胸部・胃部レントゲン撮影フィルム現像液・定着液及び、作業環境測定で取り扱う分析試薬です。従来から環境汚染を防止するため次の管理を行なっています。

工程	管理対象	管理方法
購入	現像液・定着液、試薬	必要時のみ購入
保管	現像液・定着液、試薬	地下タンク(現像・定着液)、試薬庫(試薬)に施錠保管
使用	使用量、廃液	必要時のみ使用し、廃液は分別収集
廃液保管	廃液	地下タンクに(現像廃液・定着廃液)にて施錠保管 分析液は廃棄物保管庫に集積施錠保管
廃棄	廃液	業者にて廃液処理(マニフェストにて確認)

近年、レントゲン装置のデジタル化を進めたことで、現像・定着液の取扱い量はほとんどなくなり昨年度の業者回収量の64.0kgから今年度の回収はなしとなっています。

また、作業環境測定での分析試薬の廃液発生量は昨年とほとんど同量の67.4kgです。フィルム現像液・定着液、作業環境測定分析試薬は必要最小量の使用とし、廃液は法令遵守による適正処理を実施しています。

特定化学物質の環境への排出量の把握及び管理の改善の促進に関する法令を遵守し廃棄量の把握と適正管理を継続します。

(6)グリーン購入

今年度は2品目の購入商品をグリーン購入適合商品に変更することを目標に取り組みました。ダウンサイジング用A4ファイル、プリンターインクの2品を変更しました。

7-2, 次年度の取り組み

2008年から取組を行っており、大きく成果が出る取組は無く、加えて、仕事量も増加してきた事で成果が出にくくなってきています。

2018年度からは取組内容は継続しながら、総二酸化炭素排出量を業務量との指数にて削減できるように取り組みます。

また、特に地域貢献が出来るように、全職員で屋外清掃活動に取組、地域の環境保全活動に参画いたします。

8, 環境関係法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

環境関連法規への違反はありません。

当財団では、環境関連法規については毎年チェックして問題が無いことを確認しています。今後においても社会的に信頼される健康管理機関としてこれらを継続します

環境関連法規の名称	環境関連法規を遵守する内容(概要)	遵守評価
廃棄物処理法	廃棄物の保管・管理 廃棄物収集運搬及び処分業者との委託契約 マニフェストの運用管理 焼却炉の運用確認(手順書に基づいた適正運用)	適合
環境関連法規の名称	環境関連法規を遵守する内容(概要)	遵守評価
水質汚濁防止法	特定施設の届出 適正管理	適合
消防法	一定規模以上の事業所に対する管理項目 (防火管理者の選任・消防計画の策定等) 危険物の保管・管理 (指定数量1/5未満の保管・管理)	適合
野州市生活環境を守り育てる条例	危険物漏洩発生時の市長への報告及び緊急事態の対応	適合
家電リサイクル法	排出者としての責務	適合
資源有効利用促進法	排出者としての責務	適合
電気事業法	事業用電気工作物の技術基準適合維持	適合
容器包装リサイクル法	消費者としての責務	適合
グリーン購入	事業者としての責務	適合
毒物及び劇薬取締法	業務上取扱者(非届出業者)としての責務	適合
自動車リサイクル法 (使用済自動車の再資源化等に)	自動車所有者の役割	適合
特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する説明	排出量の把握と適正管理	適合
地球温暖化対策の推進に関する法律	事業者としての責務	適合
滋賀県低炭素社会づくりの推進に関する条例	事業者としての責務	適合
フロン類の使用の合理化及び管理の適正化に関する法	管理者としての責務 エアコン簡易点検	適合

9,社会貢献活動

地域貢献活動として例年通り地域清掃活動に貢献いたしました。

日付	実施内容	実施場所
5月26日	ゴミ拾い	駐車場～財団までの導線
5月27日	草刈	保育園横
6月16日	草刈及びゴミ拾い	近隣公園
6月17日	草刈及びゴミ拾い及び溝 (県下一斉清掃)	公園、別館裏側、財団周辺 永原交差点横土手,三角駐車場,メディック横駐車場
7月8日	草刈及びゴミ拾い	当財団周辺
8月5日	草刈及びゴミ拾い	メディック借用駐車場,当財団周辺,施設内
11月4日	草刈及びゴミ拾い、落ち葉拾い	別館及び周辺
11月19日	草刈及びゴミ拾い及び溝(県下)	永原交差点横土手,三角駐車場,メディック横駐車場
12月26日	草刈及びゴミ拾い及び溝	メディック借用駐車場,当財団周辺,施設内



10, 代表者による全体評価と見直しの結果

見直し情報 環境管理責任者	変更の必要性の有無・指示内容 代 表 者
<p>〔方針、目標、活動計画の達成状況〕</p> <p>・環境方針 エアアクション21ガイドライン2009年版に対応した環境活動に継続し取り組みました。</p> <p>【2017年度の環境目標】 経営改善に繋がる環境保全活動に注力し、環境活動計画の総数で、対前年1%削減を達成する。</p> <p>・環境保全活動（具体的事項） ①炭酸ガス排出量、廃棄物排出量及び水使用量の総数で前年実質実績より1%削減する。 ②全員参加で屋外清掃活動に取り組み、地域の環境保全活動に参画する。</p> <p>・環境目標の達成状況・結果 二酸化炭素排出量目標492,446.9.0kg-CO2に対し、実績532,508.0kg-CO2あり、目標比92.5%と未達となった。 <原因> 県外活動や仕事量が増え走行距離が伸びたこと、大型バスでの更新が続いていることで、軽油の使用量が増加したことが最大の要因です。 他には別館の開催日数増加により電力使用量が増えた。ゴミ焼却を行うようになったことにより廃棄物排出量が増加している。</p> <p>水使用量は目標2010.0m³に対し実績2002.0m³であり対目標100.3%と達成しました。</p> <p>廃棄物について、尿コップ、止血綿を焼却することで廃棄物の焼却が増えているため、焼却に掛かる二酸化炭素排出が増えています。</p> <p>化学物質廃液排出は、X線車のデジタル化を進めてきたことで現像廃液の排出はありませんでした。分析廃液は昨年とほぼ同様でした。</p> <p>②屋外清掃に実施は夏・冬の屋外清掃以外に各課でも独自に施設周りから駐車場までの道のごみ拾いを行うなど清掃活動を実施しました。</p>	<p>【環境方針・環境目標】</p> <p><環境方針> 環境方針変更の必要性なし</p> <p>【2018年度の環境目標】 全員参加で、施設周辺の清掃活動をする</p> <p>・環境保全活動(具体的事項) ①炭酸ガス排出量、廃棄物排出量、及び水使用量を適正にする。 総数を業務量の変動で評価する。 ②全員参加で屋外清掃活動に取り組み、地域の環境保全活動に参画する。</p>

見直し情報 環境管理責任者	変更の必要性の有無・指示内容 代 表 者
<p>見直し情報として</p> <p>今年度の目標である総二酸化炭素対前年1%減といった目標では、仕事量が増え、エコの取組を続けてきた今では達成が難しい状況である。</p> <p>次年度の目標については、業務量を加味した指数の削減を目標とするほうが良いと考える。</p>	
<p>〔環境経営システムの実施状況〕</p> <p>2018年2月に各部署を対象に内部監査を実施しました。内部監査の結果は次のとおりです</p> <p>重大な不適合 0件 軽微な不適合 0件 推奨事項 1件</p>	<p>【監査結果の是正】</p> <p>システム課において教育訓練計画はあったが、教育が未実施であったことで推奨が1件あった</p>
<p>〔社会貢献活動〕</p> <p>施設、駐車場周辺の清掃を実施しました。</p>	<p>今後も続けて行く</p>
<p>〔法律等の遵守状況〕</p> <p>評価の結果、法規・条例は適切に遵守されていることを確認しました。 また、関係当局からの指摘等もありませんでした。</p>	<p>【環境活動計画】</p> <p>変更の必要性なし。</p>
<p>〔利害関係者の要望事項〕</p> <p>特にありません。</p>	<p>【環境経営システム】</p> <p>2015年度版での更新にむけて取り組む</p>